



<https://www.daitoken.com/kyoto/index.htm>

大学図書館研究会京都地域グループ 第45回京都地域グループ総会のご案内

大図研京都地域グループ会員の皆様へ

地域グループ総会を下記の要領で開催します。皆様の積極的なご参加をお待ち申し上げます。

記

日 時：2022年9月1日（木）
総 会：19:30～20:30
会 場：オンライン開催（Zoom）

※ 20:30～ 情報交換会（Zoom）を開催いたします。

参加をご希望の方は、ZoomのミーティングIDとPWをお伝えしますので、下記アドレスまで、ご連絡ください。

kyoto@daitoken.com

[目次]

| | | |
|--|-------|-----|
| 大学図書館研究会京都地域グループ第45回京都地域グループ総会のご案内 | … | 1 |
| 小特集：京都地域グループワンデイセミナー「明日から実践できるメディアユニバーサルデザインの基本」参加報告 | | |
| 想像こそ要、そのために知識 | 山形 知実 | … 2 |
| 「明日から実践できるメディアユニバーサルデザインの基本」参加報告 | 村上 健治 | … 5 |
| 大学図書館研究会京都地域グループ第45回京都地域グループ総会議案 | … | 7 |
| 会費ご納入のお願い | … | 11 |
| 羊図書館雑記帳 ～ループ～ | … | 12 |

○ ご意見・ご要望、投稿は下記、電子メールまたはURLへお寄せください。

電子メール：kyoto@daitoken.com（大学図書館研究会京都地域グループ）

URL：<https://www.daitoken.com/kyoto/index.htm>

「明日から実践できるメディアユニバーサルデザインの基本」参加報告

想像こそ要、そのために知識

山形 知実

2022年5月14日(土)、京都地域グループワンデイセミナー「明日から実践できるメディアユニバーサルデザインの基本」がオンライン開催されました。テーマが「デザイン」であっただけに、文章だけでご報告するのも少々チャレンジングですが、有意義なお話の中から、個人的な気づきが多かった第1部を中心に、内容をご紹介します。

1. メディアユニバーサルデザインと、「伝える」ために最も大切なこと

メディアユニバーサルデザイン (Media Universal Design: MUD) とは、より多くの方へ、わかりやすく情報を伝えるための配慮手法です。対象を「すべての方」にした途端、MUD実施のハードルは俄然高くなってしまふことから、ここでは「より多くの方へ」という点がひとつのポイントとして強調されました。また、印刷物や表示物による情報伝達で最も重要なのは、「手に取ってもらうこと」「目を留めてもらうこと」であり、それを実現するのが「デザイン」であること、そして優れたデザインとは、感性を揺さぶる表現や美しさによる「訴求力」と、読むことにストレスがないという「心地よさ」を兼ね備えるもの、という提示がありました。

講師の阿部さまは、人や環境によって見え方は大きく違うため、どういう人が、どういう環境下で読者となるのかを想像することが大切と述べています。

図書館という場所(特に公共図書館ではそうでしょう)では、つい、「すべての方」を目指したい気持ちになってしましますが、この冒頭のお話で、早速なんだかホッとしました。

2. 想像を助ける具体的な知識として、知っておくとよいこと

■見えにくさの要因例

① 老眼や白内障

加齢により誰もが経験する。読み書きともに不便になる。予備軍を含めると、なんと人口の5分の3の人が該当!

② 加齢による色覚変化

加齢に伴って水晶体が濁り、淡い色が見分けにくくなる。

③ 色覚障がい

特定の色の見え方が違う。1型(P型)、2型(D型)、3型(T型、非常に稀)がある。多くは遺伝性で、日本人では男性の5%、女性は0.2%が該当するが、国や地域によって多少異なる。

④ その他視覚障がい

全盲・弱視・視野狭窄など

■見えにくさの種類

① 形の見えにくさ

例えば、老眼では文字がぼやけてつぶれ、白内障では文字がかすれて見えにくくなる。特に文字の中の細い横線や画数が多い漢字では顕著。

② 色の見えにくさ

一般色覚と色覚障がいでは、見分けやすい色が違う。特に緑～赤の領域で異なり、緑～青の領域では差が小さい。ただし、色覚障がいの人是一般の人より明度差に敏感という特性もあるため、色覚障がい者にはわかりやすくても、淡い色が見分けにくい高齢者にはわかりにくいこともある。

■ 基本的な配慮の手法

① 文字による配慮：適切な書体、文字サイズ、行間で

- ・ 書体によって見かけの文字サイズは変わるため、長文や縦組み本文には、文字間が広く見える明朝体や細めのゴシック体が向く。さらに可読性を高めるには、等幅フォント¹がよい。短文や見出しには、太め書体やコンテンツに合ったデザインフォント、高齢者対象や文字サイズが小さい場合には、ユニバーサルデザイン配慮の書体がよい。
- ・ フォントサイズは、ただ大きければいいというものでもない。文字が大きいと入れられる情報量に制限が出たり、手に取ってくれるような魅力あるデザインではなくなって「伝わらなく」なったりする可能性がある。
- ・ 行の長さが長い文章は、行間を広くすることを心がける。例えば、文字サイズ12ポイントの20字詰めでは文字サイズの約2分の1、35字詰めなら1分の1程度が適切。
- ・ すべてを上記のようにするのではなく、見えにくい箇所だけ変更するのも一手。

② 色使いによる配慮：見えにくさを知る

- ・ 配色のほかに、明度（色の明るさ）、彩度（色の鮮やかさ）に差をつけると、色覚障がい者にも高齢者にも見分けやすくできる。
- ・ 文字に縁取りや下線をつけたり、色のみでの表示とせず地模様をつけたり、色名を言葉で補うことも有効。
- ・ このような複数の工夫を組み合わせで強調し、色のシミュレータ²や、Adobe CS4以降に標準搭載されているシミュレーションツールを使って見え方を確認する。
- ・ 必ずしも、障がいのある方に見えにくいからという点だけを判断基準にしない。例えば、赤と黒の組み合わせは、一般色覚の人にはインパクトがある。MUD対応に無理をせず、バリアフリー対応を上手く組み合わせるのもよい。

③ レイアウトによる配慮

- ・ 文章の端を揃える。
- ・ 内容の重要度を整理し、文字サイズにメリハリをつける。
- ・ 優先順位に応じて、紙面の大きさを割り当てる。

3. さいごに

さて、この報告文では、私なりに学んだことを生かすべく、デザインを工夫してみました。以下にどういう人が、どういう環境下で読者となるのかの想像と、それに応えるべく採用した書式設定をまとめてみます。読みやすかったでしょうか、或いは気になるところがあったでしょうか。的外れな点や、ひよっとすると理解の誤りもあるかもしれませんが。ここまでを読まれて抱かれたご感想が、皆さまのMUD実践の一助になれば幸いです。

① 対象者：だれが読むのか？

主に大図研京都地域グループの皆さま。ただし半年経過後は一般公開される。

② 環境：どんな環境で読むのか

オンライン公開のため、各自がディスプレイ上あるいは自分で印刷して読むだろう。なので、環境の明るさや文字サイズは、各読者が好みに合わせて比較的容易に調整できるだろう。ただし、PDF形式なので、フォントの置換などはやや困難と思われる。あらかじめ読みやすくしたい。

③ 目的：何を目的に読まれるか

自学自習のため。

④ 書式設定

使用フォント：日本語用はBIZ UD明朝、英数字用はSegoe UI

フォントサイズ：本文 10.5 ポイント、見出し 12 ポイント

文字数：40 文字

行数：36 行

行間：1 行

やまがた ともみ（北海道大学附属図書館）

-
- 1 すべての文字が同じ幅で作られたフォントのこと（例：MS明朝）。反対に、文字によって幅が違うフォントをプロポーショナルフォントと呼ぶ（例：MSP明朝）。同じスペースに入れるなら、プロポーショナルフォントの方が情報量を多くできる側面もある。
 - 2 Kazunori Asada. 色のシミュレータ. <https://asada.website/cvsimulator/j/>, (参照 2022-05-18).

参考

- 1) “シミュレーションツールのご紹介”. NPO 法人メディア・ユニバーサル・デザイン協会. <https://www.media-ud.org/activity/tool/>, (参照 2022-05-18).
- 2) “視覚情報のユニバーサルデザインのための指針”. 静岡県. <https://www.pref.shizuoka.jp/ud/datas/index.html>, (参照 2022-5-18).
- 3) オフィス伝わる. 伝わるデザイン 研究発表のユニバーサルデザイン. <https://tsutawarudesign.com/index.html>, (参照 2022-05-18).

「明日から実践できるメディアユニバーサルデザインの基本」参加報告

村上 健治

「ユニバーサルデザイン(UD)」。よく目にするけれども、いまひとつ内容がよく分かっていないことの基本が学べると思い、5月14日におこなわれた標記セミナーに参加しました。講師はNPO 法人メディア・ユニバーサル・デザイン協会の理事、阿部浩之氏でした。

セミナーの内容は広報物等における文字と色の使い方に関することが中心でした。最初に「メディア・ユニバーサルデザイン」の定義として「より多くの方へわかりやすく情報を伝えるための配慮手法」であることが示されました。情報伝達でもっとも大切なことは「(広報物等を)手に取ってもらう」ことであり、そのために必要なことが「デザイン」。「美しい表現」と「読むことにストレスがないこと」とのことでした。次いで示された以下の数字は、これまで自分自身が考えてきた「障がい」の考え方に変更を迫るものでした。

「高齢者 65 歳以上約 3,657 万人」「色覚障がい者約 320 万人」「ロービジョン推定約 145 万人」「障がい者数約 700 万人」「子ども (15 歳以下)・外国の人約 1,700 万人」「約 6,520 万人/約 1 億 2,255 万人」

日本に住むほぼ半分の人には何らかの障がいがある、ということです。この数字が示すように、セミナーの内容は広報物等が高齢者(老眼・白内障)にどのように見えているかということと、色覚障がい者にどのように見えているか、ということの2つが中心でした。これまでこの種のセミナーは、色覚障がい者の見え方が中心であったという印象を持っていましたので、高齢者が対象に含められていたこと、子どもや外国の人など日本人の成人が使う日本語の理解に支障のある人まで考えが及んでいなかったことに改めて気づかされました。日本の大学図書館は、まだまだ日本人の若い人が広報の主な対象になっていると思いますのであまり関係がないかもしれませんが、教職員には高齢者もいますし、これからリカレント教育や生涯教育、グローバル教育が本当に進展していくとすれば、身近な問題になってくるだろうと思いました。

講演では、文字のフォントの目安として 10.5~12 ポイントが示されました。私自身、30 年前には資料を 12 ポイントで作成するなんて考えたこともありませんでした。当時の上司から「読みづらい。12 ポイントぐらいにしてくれ」といわれたような記憶はありますが、それ以降も頑なにポイント数を変更していなかったようです。講演後に確認したところ、私は今でも資料を 10.5 ポイント (Word の初期設定?) でつくっていました。講演でも指摘されましたが、眼鏡をかければそれなりに読めますので、そのままになっていたようです。ただ、さすがに最近はややピントをあわせづらくなってきましたので、そろそろ老眼鏡をかけないといけないとも考えはじめています。

色について 30 年前に意識することはありませんでした。何故なら印刷も「白黒」しかできませんでしたので。今のように比較的気軽にカラーを使えるようになったのは、もっと後のことです。そしてカラーを使えるようになってからも、経費節減努力の徹底

した職場を経験すると、白黒だけで資料につけたグラフの内容がわかるように工夫する必要に迫られますので、私自身は色付きのグラフはほとんど作らなくなりました。ただ、黒色だけの広報物等はどうしてもインパクトに欠けますので、なかなか手にとってもらえなくなります。講演では、色を使った広報物等を作成する際の工夫がいくつか示され、とても参考になりました。

また、読者の環境がさまざまであることを想像することの重要性が指摘されましたが、私のような凡人には実際に体験してみないと理解が進まない、というのが悲しいところです。老眼や白内障は加齢に伴って誰もが経験することなのですが、経験してみるまではどのようになるのかよくわかっていませんでした。文字フォントの違いにしても、若い頃はどのフォントであっても文字がつぶれずに読めますので、違いがなかなかわからなかったのですが、老眼になってみるとフォントによって視認性がまるで違っていてびっくりしています。やはり経験してみることは大切ですが、そのためには年を取る必要があります。あるいは高齢者の声にもっと耳を傾ける必要があります。

お話の中で印象的だったことの一つは「ユニバーサル」にとらわれすぎて無理をしすぎないように、ということでした。一つの方法だけで全ての人に情報を伝えようとするハードルが高くなりすぎるので、他の方法も考えて柔軟に対応することが大切である、ということです。例えば、ウェブサイトの URL と QR コードの双方を並べて記載することがあげられます。

上記のほかにもデザイン上の工夫・メリハリ、図記号・絵記号・ピクトグラムを活用など多くのヒントをいただきました。このような機会をご提供いただきました講師と京都地域グループのみなさまに感謝申し上げます。

※以下、セミナーの内容に関係したウェブサイトです。参照した日付はいずれも 2022 年 5 月 15 日です。

NPO 法人メディア・ユニバーサル・デザイン協会

<https://www.media-ud.org/>

京都市情報館「わかりやすい印刷物のつくり方」

<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000179091.html>

※いくつかの地方公共団体では、このようなマニュアルを作成しているそうです。

「お役所文書、赤ペン入れます 民間出身の“先生”「詰め込みより読みやすさ」

https://www.asahi.com/articles/DA3S15289772.html?iref=eve_articlelink01

※朝日新聞デジタルの有料会員記事。なお、朝日新聞クロスサーチで調べるのであれば、次の見出しになります。「お役所文書 赤ペン入れます」（朝日新聞 2022 年 5 月 10 日夕刊）

「JIS 絵記号」については、例えば次のウェブサイト

http://pic-com.jp/03_03_jis_ekigou.htm

「図書館ピクトグラム」（図書館流通センターのウェブサイト）

<https://www.trc.co.jp/topics/pict.html>

（むらかみ けんじ・広島大学図書館）

【第1号議案】

2021/2022 年度(2021.7～2022.6)活動総括及び 2022/2022 年度(2022.7～2023.6)活動方針

大学図書館研究会京都地域グループ

第45回京都地域グループ総会議案

1.2021/2022 年度総括

(1) 研究交流活動

1) 以下4企画について実施した

・大図研京都ワンディセミナー「入江 伸氏（元慶應義塾大学メディアセンター本部）が隠さず話す。これまでのこと。これからの大学図書館のこと。」（参加人数 43 人）

2021 年 11 月 6 日（土）

京都と何故か関係深い入江さんに、これまでの取り組みの背景になっていたものや、実際に取り組んできた事、そして苦労した内容など幅広く語っていただきました。

・大図研東京・京都 合同企画「新図書館バーチャル見学会 ～大学内における位置づけと新たな役割～」（参加人数 105 人）

2021 年 12 月 11 日（土）

東京地域グループとの合同企画として、東西の国立大学で最近オープンした2つの図書館をオンラインでご紹介しました。

・関西3地域グループ合同例会「これからの学習支援：対面とオンライン、図書館員が知っておきたいこと」（参加人数 31 人）

2022 年 2 月 27 日（日）

図書館員が学習支援を行っていくうえで、知っておきたいスキル、対面とオンラインの差異、オンラインの強みと課題、などを考える。

・大図研京都ワンディセミナー「明日から実践できるメディアユニバーサルデザインの基本」（参加人数 40 人）

2022 年 5 月 14 日（土）

メディアユニバーサルデザインの基本について学ぶ

(2) グループ報

2021/2022 年度刊行分につきましては、計画的発行を目指し、編集作業を行いました。また、新規企画として今年度より『羊図書館雑記帳』の連載を開始いたしました。

2021/2022 年度発行したグループ報の目次は、次のとおりです。

1) グループ報 No.343(2021.08.15 発行)

・大図研京都ワンディセミナーのご案内「入江 伸氏（元慶應義塾大学メディアセンター本部）が隠さず話す。これまでのこと。これからの大学図書館のこと。」

・大学図書館研究会京都地域グループ第44回京都地域グループ総会議案

・第1号議案

- ・ 第2号議案
- ・ 第3号議案
- ・ 第4号議案
- ・ 議事メモ・補足事項
- ・ 会費ご納入のお願い

2) グループ報 No.344(2021.10.15 発行)

- ・ 新図書館バーチャル見学会 ～大学内における位置づけと新たな役割～ ご案内
- ・ グループ運営委員 挨拶
- ・ 羊図書館雑記帳 ～図書館員のお話～
- ・ 会費ご納入のお願い

3) グループ報 No.345(2021.12.15 発行)

- ・ 新図書館バーチャル見学会 ～大学内における位置づけと新たな役割～ 終了しました
- ・ 小特集：大図研京都ワンディセミナー「入江 伸氏（元慶應義塾大学メディアセンター本部）が隠さず話す。これまでのこと。これからの大学図書館のこと。」参加報告
- ・ 大図研京都ワンディセミナー「入江 伸氏（元慶應義塾大学メディアセンター本部）が隠さず話す。これまでのこと。これからの大学図書館のこと。」参加報告（寺升 夕希）
- ・ 大図研京都ワンディセミナー「入江 伸氏（元慶應義塾大学メディアセンター本部）が隠さず話す。これまでのこと。これからの大学図書館のこと。」参加報告（福嶋 涼）
- ・ 羊図書館雑記帳 ～慣れ～
- ・ 会費ご納入のお願い

4) グループ報 No.346(2022.02.15 発行)

- ・ 関西3地域グループ合同例会のご案内「これからの学習支援：対面とオンライン、図書館員が知っておきたいこと」
- ・ 小特集：大図研 東京地域グループ・京都地域グループ合同企画「新図書館バーチャル見学会～大学内における位置づけと新たな役割～」参加報告
- ・ 大図研 東京地域グループ・京都地域グループ合同企画「新図書館バーチャル見学会～大学内における位置づけと新たな役割～」参加報告（野田 ひかる）
- ・ 新図書館バーチャル見学会参加記（藤原 由華）
- ・ 会費ご納入のお願い
- ・ 羊図書館雑記帳 ～ないないあるある～

5) グループ報 No.347(2022.04.15 発行)

- ・ 京都地域グループワンディセミナーのご案内「明日から実践できるメディアユニバーサルデザインの基本」
- ・ 図書の紹介 湯浅俊彦『電子出版学概論 アフターコロナ時代の出版と図書館』（出版メディアパル, 2020）（長坂和茂）
- ・ 会費ご納入のお願い
- ・ 羊図書館雑記帳 ～MY BOOK～

6) グループ報 No.348(2022.06.15 発行予定)

- ・ 大学図書館研究会京都地域グループ第 45 回京都地域グループ総会のご案内
- ・ 小特集：京都地域グループワンディセミナー「明日から実践できるメディアユニバーサルデザインの基本」参加報告
- ・ 想像こそ要、そのために知識 (山形知実)
- ・ 「明日から実践できるメディアユニバーサルデザインの基本」参加報告 (村上健治)
- ・ 大学図書館研究会京都地域グループ第 45 回京都地域グループ総会議案
- ・ 会費ご納入のお願い

(3) Web サイト、メーリングリスト、メールマガジン

イベント案内、グループ報、グループ運営委員会報告を掲載しました。

メーリングリストは新入会員にあわせ、適宜追加作業を行いました。

さらに Twitter の活用を図り、768 アカウント (2022.7.9 現在) のフォロワーを得ています。ワンディセミナーや合同例会の告知を行うとともに、他の地域グループのツイート等も積極的にリツイートいたしました。

また、メールマガジンは、「大図研京都地域グループ News Letter」として、no.287 (2021 年 9 月 1 日) から no.297 (2022 年 7 月 1 日) を発行しました。グループ活動をお知らせするものとして、グループ委員会議事録、グループ企画案内を紹介する記事を配信しています。また、図書館関係のイベント案内を不定期で配信いたしました。

(4) 組織活動 51 名の地域グループ会員の皆様に支えていただき活動しました。

2021/2022 年度は 退会者が 2 名、また新規入会者は 4 名でした。ワンディセミナーや HP、SNS 等で京都地域グループの活動をアピールし続けた結果と思われます。

(5) 財務 活発な研究交流企画実施のため、多くの研究交流会費を計上しました。オンラインによる開催のため、多くの参加者を得ながらも参加費をえられませんでした。会場費は圧縮されました。

(6) 広報とデザイン

ワンディセミナー等において、引き続きポスター・チラシ作成等の広報活動に努めました。

2. 2022/2023 年度活動方針

(1) 研究交流活動

1) 会員の発表の場としての研究交流活動の企画に積極的に取り組みます。

- ・ 会員の知的交流の場であると共に非会員への広報でもあるという意味を再認識し、組織拡大への貢献も大きな柱といたします。
- ・ 勉強会的な企画だけでなく、交流を軸とした企画も検討し、年 2 回程度は開催できるようにします。
- ・ ウィズコロナ(アフターコロナ)も考慮し、Web 会議方式での開催も引き続き検討していきたいと思っております。

(2) グループ報

定期発行を心掛けるとともに、引き続き広く寄稿を求め、今後も、会員の皆さまへの情報提供・会員間での情報共有を目標とし、連載や特集記事の企画など内容の充実に努めます。

(3) Web サイト、メーリングリスト、メールマガジン

古くなったページやメタデータの更新を引き続き行います。メーリングリストは入会や退会、更新の処理を適宜行います。さらに広報活動の一環として Twitter アカウントの積極的活用を継続します。

また、メールマガジンについて、より読まれるような内容にする工夫を継続するとともに、配信のタイミングについて検討していきます。同時に、メーリングリスト"ゆりかもめ"についてもその目的である「会員相互の親睦と交流を盛んにすること」の達成を目指し、会員による自由な投稿を促進するよう検討を重ねます。

(4) 組織活動 2022/2023 年度当初の会員数は 49 名です。ワンディセミナー、各種イベント、グループ報、ホームページ、メールマガジン、SNS 等を通じ、会員相互の交流が図れるような活動に努めます。また、研究交流企画等を通じて、新たな会員の獲得に努めます。

(5) 財務

活発な研究交流企画実施のため、多くの研究交流会費を計上しますが、グループ報の電子的な発送やオンラインでの研究交流活動企画のため経費の圧縮が見込まれます。グループ会費の適切な金額について引き続き検討を行います。

(6) 広報とデザイン

ワンディセミナー等において、引き続き Web サイト・ポスター・チラシ作成等の広報活動に努めます。

◇ 会費ご納入のお願い ◇

会員のみなさまにおかれましてはご健勝のことと存じます。

2016/2017年度(2016年7月～2017年6月)より、大学図書館研究会会費は、すべての会員の皆さまに、直接大学図書館研究会事務局へご納入いただくこととなりました。

一括徴収方式に移行いたしました。京都地域グループは年度継続の前に会費をご納入いただく前納があまり進んでいない状況でございます。ワンデイセミナーやグループ報は京都地域グループ費により開催・発行させていただいております。ご多忙のところ大変恐縮ですが、会費のご納入のほどよろしくお願いいたします。

会費は、¥7,000(大図研会費：¥5,000+京都地域グループ費：¥2,000)/年度です。

【振込先】

郵便局 00190-2-79769 大学図書館問題研究会

■銀行名 ゆうちょ銀行 ■金融機関コード 9900 ■店番 019

■預金種目 当座 ■店名 〇一九(ゼロイチキューウ店) ■口座番号 0079769

ご不明な点は大学図書館研究会事務局(会費担当)(kaihi@daitoken.com)までご連絡ください。

※ 学生会員制度(試行)として、学生の方には特典をお渡ししております。

詳細は京都地域グループ Web サイトの「学生会員制度の試行について」をご覧ください。

『羊図書館雑記帳』

水知せり様に大学図書館に関するマンガ掲載第5話です！応援コメント・ご感想などお待ちしております！

作者：水知せり

猛暑が勢いを増すばかりの今日この頃、みなさまいかがお過ごしでしょうか。私は例によってじめじめとした家にこもって陰鬱に本を読んでいます。

そこに加えて、待ちに待った国立国会図書館の「個人向けデジタル化資料送信サービス」も始まり、時間が無尽蔵に溶けております。

いや、素晴らしいですね！検索しては涙を流していたあの資料もこの資料も読める！嬉しい！！感動！！と思うのですが、資料によっては少し読みにくいものもあり、やはり本で確認するとすいすい頭に入ってくるようで、かえって新鮮な感覚があります。

デジタルと紙媒体。蔵書スペースの関係もあり、除籍廃棄などの問題も悩ましいのですが、自分でもうまく使い分けていたらと思っています。

ループ

